

社会貢献活動の基本的な考え方

当社およびグループ各社は、金融グループとしての高い公共性を認識し、本業での活動を通じて社会の発展へ貢献することが重要と考えます。一方で、日常業務を通じた社会への貢献に加え、豊かな社会を実現するための『良き企業市民』としての活動も欠かせません。当社およびグループ各社は、『良き企業市民』として社会的責任を果たすべくさまざまな社会貢献活動を行います。

社会貢献活動方針

当社およびグループ各社は、『良き企業市民』としての役割を認識し、豊かで持続可能な社会の実現を目指し社会貢献活動を行います。この社会貢献活動を積極的に行うため、企業で活動を企画・実施するとともに、社員のボランティア活動を支援します。

社会貢献活動の柱

当社およびグループ各社は、以下の4つの分野を社会貢献活動の柱としています。

福祉活動、地域・国際社会、環境活動、文化・芸術・教育

福祉活動

●書き損じはがきほか、収集ボランティアの実施

当社では、グループ各社の社員から「書き損じはがき」を募集し、ボランティア団体に寄贈しています。また、三井住友銀行では「未使用テレホンカード」、三井住友ファイナンス&リース・SMBC日興証券・SMBCフレンド証券・三井住友カード・セディナ・SMBCコンシューマーファイナンスでは「ペットボトルのキャップ」、SMBC日興証券・SMBCフレンド証券・三井住友カード・セディナ・SMBCコンシューマーファイナンスでは「使用済み切手」を社内で収集し、寄贈しています。また、三井住友銀行・SMBCフレンド証券では、株主優待品の寄贈も行っています。

●団体献血の開催

三井住友銀行・三井住友ファイナンス&リース・三井住友カード・SMBCコンシューマーファイナンス・SMBC日興証券・セディナでは、職場での団体献血を実施しています。平成25年度は、6社合計で868名が参加しました。

●寄付型自動販売機の設置、福祉団体の製品販売実施

三井住友銀行では、飲料を購入すると福祉団体に寄付が行われる仕組みの自動販売機を本店ビルに設置しています。SMBCコンシューマーファイナンスでは、日本聴導犬協会へ寄付が行われる仕組みの自動販売機を、本社およびセンターにも設置しています。また、障がい者就労施設の製品販売を継続的に行っています。

地域・国際社会

●三井住友銀行ボランティア基金

三井住友銀行では、有志役職員の給与から毎月一律100円を天引きする積立募金に、1万1千名超が加入しています(平成26年4月現在)。寄付先は、有志従業員や専門機

関から推薦された団体を、有識者と有志従業員で構成する審査会において審議し、決定しています。平成25年度は、有志従業員がボランティア活動で支援する団体や、国内外で経済的困難に関する社会課題等の解決に取り組む38団体への寄付を実施しました。

<海外>

カンボジアのスラムなどにおける保育所・給食支援、ミャンマーの少数民族への教育支援、ウガンダにおける元・子ども兵に対する社会復帰支援、等を行う団体

<国内>

児童虐待防止に向けた啓蒙活動、子育てをする女性への地域に根差した育児支援、ホームレス状態の人への食糧支援、視覚障がいのある方の自立支援、等を行う団体

グループ会社のさくらケーシーエスでも、役職員の約8割以上に当たる936名がボランティア基金に加入し(平成26年5月現在)、福祉や環境活動への寄付活動を行っています。



カンボジア首都のスラム保育所での給食

●役職員参加型ボランティア

平成25年度より初めて、ボランティア基金の寄付先を中心に、社会的問題の解決に取り組む団体でのボランティア活動を役職員に紹介し、同団体の活動を支援するプログラムを実施しました。夏(6~8月)、秋冬(10~12月)の2期で、31プログラムを展開し、延べ270名が参加しました。



視覚障がい者を支援する団体施設の清掃

●大規模災害発生時の義援金口座の開設、寄付等

三井住友銀行は、国内外の大規模災害発生時に、振込手数料無料の口座を開設してお客さまの募金を受け付けるとともに、行内、グループ各社役職員にも呼びかけています。平成25年度は、中国四川省地震や台風18号被害に対応するとともに、東日本大震災の義援金も継続的に受け付けています。また、中国四川省地震の被害では、三井住友銀行・SMBC日興証券より寄付を行いました。更に、フィリピンの台風30号被害では、三井住友銀行・SMBC日興証券・三井住友カードより寄付を、みなと銀行より非常用食糧の寄贈を行いました。

●SMBCプロボノプロジェクト

社会人がビジネススキルや職務経験を活かしてボランティアを行う「プロボノ活動」に「SMBCプロボノプロジェクト」として取り組んでいます。平成25年度は、有志従業員によるプロボノチームが、寄付金や経費の管理に必要な帳票や事務フローの整備、寄付者の情報整理やデータベースの整備など、NPOの業務基盤を強化するためのアドバイスを行いました。東京都内では児童問題に取り組む2つのNPOと国際保健問題に取り組むNPO宛に支援をしました。関西地域では、ホームレス問題の解決を目指すNPOの支援を行い、平成25年度は4つのNPO法人を、有志従業員の参加と協賛により支援しました。

●ボランティアスタッフYUIの活動

三井住友銀行では、従業員自らが企画立案を行う社内ボランティア組織「YUI」の支援を行っています。ろう学校での交流会、海岸清掃への継続的な参加、地域の高齢者施設への定期訪問などを継続的に行っています。

●全国拠点における地域への貢献

三井住友銀行では、全国の営業拠点が自ら企画し地域社会に貢献する活動を推進しており、銀行見学会、支店周辺や野外での清掃活動、地域のイベントへの参加などを行っています。SMBC日興証券でも、地域の清掃活動やボランティア活動に積極的に参加しています。

SMBCコンシューマーファイナンスは、地域のコミュニケーション拠点として社会やお客さまのニーズを感じ取り、それらにお応えしていくための地域に根ざした活動として、お客様サービスプラザを展開しています。家計診断などのカウンセリングサービスの提供や、地域の方々や学生に向けたお金に関する啓発活動・金融経済教育活動などを通して、社会とともに持続的に発展していくことを目指しています。また、みなと銀行では、お客さまに安心を与える店舗づくりの一環として、神戸市内38カ店で「こども110番」の運用を開始しました。

●外国コイン募金活動

三井住友銀行は、ユニセフ外国コイン募金実行委員会のメンバー企業として、同募金活動の運営に協力しています。集まった募金は各国通貨別に仕分けし、ユニセフに送っています。

●商品・サービスを通じた寄付支援

三井住友銀行では、普通預金の税引後利息を寄付する「ユニセフ愛の口座」を取り扱っており、同行でもお客さまと同額の寄付をしています。

三井住友カードは、ワールドプレゼントの景品を通じ、VJAグループ各社カード会員から寄せられた寄付金をユニセフ、ユネスコ、WWFジャパン、WFPに寄付し、あわせて同社からもユニセフへの寄付を実施しました。また、クレジットカードを通じた寄付支援として、インターネット募金の受付や各種社会貢献型カードを発行し、利用額の一部を寄付・還元しています。

セディナでは、“子どもたちの夢を形にする”をコンセプトとする「アトムカード」等の社会貢献型カードを発行し、利用金額の一部を児童養護施設等に寄付しています。またポイント交換を通じた寄付やインターネット募金の受付も行っています。

関西アーバン銀行は、環境関連預金の残高に応じ、毎年環境保全団体へ寄付を実施しており、平成15年度からの累計で寄付金額は5千万円を超えました。

●TABLE FOR TWOへの参加

三井住友銀行・三井住友ファイナンス&リース・三井住友カードでは、社員食堂でヘルシーメニュー1食を購入すると開発途上国の学校給食1食分がNPO法人「TABLE FOR TWO International」に寄付される取り組みを、本店等で実施しています。三井住友銀行では、全国の支店でこの取り組みを行っています。また、三井住友銀行・三井住友ファイナンス&リース・SMBC日興証券・SMBCフレンド証券・三井住友カードでは、飲料を購入すると同団体に寄付される仕組みの自動販売機も設置しています。

●財団を通じた取り組み

米国を本拠とするSMBC GLOBAL FOUNDATIONは、平成6年よりアジア各国で学ぶ大学生6,000名超に奨学金を支給しています。またニューヨーク市ハーレムの高校が主催する日本研修旅行の支援、学校の美化活動への三井住友銀行従業員によるボランティア参加、同従業員が行う寄付に対して、財団からも同額の寄付等を実施しています。

三井住友銀行国際協力財団は、開発途上地域の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的とし、平成2年の設立当初より、アジアから日本の大学院へ進学した留学生、毎年7〜8名を対象に奨学金を支給しています。また、開発途上国の経済発展に資する活動を行っている研究機関・研究者への助成を行っています。

環境活動

●環境保全活動への参加

当社では「SMFGクリーンアップデー」を定め、平成25年度はグループ各社の有志従業員とその家族約1,500名が、荒川、淀川、須磨海岸(兵庫)、藤前干潟(名古屋)の4会場で清掃活動に参加しました。

SMBCフレンド証券では、東京・大阪の2会場で独自に清掃活動を開催し、134名が参加したほか、関西アーバン銀行では、滋賀県の「琵琶湖岸」清掃活動に参加しました。SMBC日興証券では、平成22年秋以降、環境保全・社会貢献活動強化期間として「Green Week」を設置し、平成25年度は清掃活動やペットボトルキャップ等の収集活動に社員と家族延べ6,678名が参加しました。三井住友ファイナンス&リース・セディナ・SMBCコンシューマーファイナンスでも事業所周辺などで継続的な清掃活動等を行っています。



●SMBC環境プログラムC.C.C富良野自然塾

三井住友銀行は、脚本家の倉本聰氏が北海道の富良野で実施する、閉鎖されたゴルフ場の跡地を元の森に回復させる活動と、五感で自然を体感する環境教育プログラムを支援しています。

●「環境フォト・コンテスト」への協賛

三井住友ファイナンス&リースは、環境問題の大切さを伝え行動を喚起することを目的とする写真コンテストに協賛し、「三井住友ファイナンス&リース賞」を贈呈しています。

●子どもエコクラブ全国フェスティバルへの協賛

三井住友銀行は、(財)日本環境協会が主催する「子どもエコクラブ全国フェスティバル2014」に協賛し、ブースを出展しました。

●環境学習への取り組み

関西アーバン銀行は、滋賀県の琵琶湖で小学生を対象とした「夏休み!びわ湖体感学習」を開催し、子どもたちが体験を通じて自ら環境意識を育む活動に取り組んでいます。

文化・芸術・教育

●チャリティーコンサート「名曲のおもちゃ箱」開催

三井住友銀行では、平成18年度より毎年、有志従業員演奏によるチャリティーコンサートを開催し、お客さまを無料でご招待しています。平成26年度も、会場での募金受付や社員の手づくり品のチャリティー販売などを通じて、東日本大震災被災地およびカンボジア・ベトナムの子どもたちの支援を行いました。

●営業店でのロビーコンサートの実施

三井住友銀行の本店・大阪本店や、関西アーバン銀行の本店・びわこ本部では、一般の方に無料で鑑賞いただけるロビーコンサートを実施しています。

●文化芸術事業の支援

SMBCフレンド証券では、山種美術館の特別展への協賛を通じて、文化・芸術活動を支援しています。

三井住友カードでは、国立劇場・国立演芸場への綴帳寄贈や子ども歌舞伎への公演協賛を通じ、古典芸能振興と人材育成を支援しています。

三井住友銀行・SMBC日興証券・みなと銀行では、クラシックコンサートへの協賛を通じて、音楽文化の振興を支援しています。

●金融経済教育への取り組み

三井住友銀行・SMBC日興証券では、小学生向けの職業体験イベントを開催しています。三井住友銀行では、「夏休み!こども銀行たんけん隊」に加え、各支店で随時小学生から高校生まで職場見学の受け入れを行っているほか、小学生向け書籍「銀行のひみつ」の発刊、お仕事体験タウン「キッザニア」への協賛、中学生向けの経済教育プログラム「品川ファイナンスパーク」への協力など、幅広く金融経済教育活動に取り組んでいます。SMBC日興証券では、日興「家族でワクワク体験DAY」を夏休み期間中に開催し、平成25年度は小学生とその家族合わせて1,912名に参加いただきました。SMBCコンシューマーファイナンスでは、主にお客様サービスプラザが中心となり、小学生を対象にお金の成り立ちや役割について学ぶ「カードゲーム」や、学生・社会人を対象とした金融経済教育セミナーを実施しており、平成25年度は、合計2,740回開催し、126,270名の方に参加いただきました。関西アーバン銀行では、小学生を対象とした「銀行見学会」を夏休みに開催しており、中学生を対象とした「職場体験学習」の受け入れも実施しています。三井住友銀行・三井住友ファイナンス&リース・SMBC日興証券・三井住友カード・日本総合研究所・みなと銀行でも、大学への講師派遣等を行っています。

少子・高齢化に向けた取り組み

●支店におけるユニバーサルデザイン・ユニバーサルサービスの導入

三井住友銀行・みなと銀行・関西アーバン銀行では、さまざまなお客さまのご来店に対応するため、以下のような取り組みを行っています。なお、三井住友銀行では、国内の支店ATM、店舗外ATMの全台を視覚障がい者対応ATMにしています。

- ・視覚障がい者対応ATMの設置
- ・筆談ボード、コミュニケーションボードの設置
- ・自動体外式除細動器(AED)の設置*

- ・助聴器の店内設置(みなと銀行)
- ・杖ホルダー(三井住友銀行、みなと銀行)、耳マーク表示板、ソファ用書記テーブル(三井住友銀行)の設置
- ・高齢者や身体の不自由な方向への優先座席の設置(みなと銀行)等

※自動体外式除細動器(AED)はSMBC日興証券、SMBCフレンド証券でも設置をしています。

また、三井住友銀行やみなと銀行では、高齢者や身体の不自由な方に関する知識・サポート方法を習得したスタッフを各店に配置しています。

●超高齢化社会を見据えたビジネス展開に向けて

三井住友銀行では、今後増加が見込まれる高齢者専用賃貸住宅の普及を支援するため、担保管理等の取り扱い要領の明確化を行い、平成25年5月には有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅を融資対象不動産とする専用ローン(介護施設提携ローン)の取り扱いを開始しました。

今後も社会のニーズに合わせ、高齢者が安心していきいきと生活できる仕組みづくりを支援していきたいと考えています。

東日本大震災復興支援活動

●被災地支援ボランティアの実施

三井住友銀行では平成23年4月に「震災復興特別休暇」を創設し、同年5月より役職員による定期的な被災地支援ボランティアを開始しました。宮城県の巨理町や石巻市、東松島市を中心に継続して取り組んでおり、平成23～25年度累計で延べ約420名が参加しています。平成24年および25年8月には、従業員の家族も参加するプログラムを開催し、延べ約45家族、約120名が参加しました。



SMBC日興証券でも、平成23年4月にボランティア休

海外拠点における取り組み

当社グループでは海外拠点において、その国や地域の課題、文化に即した独自の取り組みを展開するほか、ボランティア基金でもNPO・NGOへの寄付を通じて、開発途上国の貧困問題解決、教育や医療支援、女性の地位向上などに資するプロジェクトを支援しています。

- ・三井住友銀行(中国)有限公司における、浙江大学、中山大学、蘇州大学、華東師範大学、上海外国語大学、天津外国語大学での奨学金制度
- ・三井住友銀行(中国)有限公司における、上海、北京、蘇州、天津、広州での植樹活動
- ・三井住友銀行香港支店における、アジアの若手音楽家によるオーケストラへの寄付
- ・三井住友銀行ソウル支店における、「全国学生日本語演劇大会」への寄付を通じて、韓国の学生が日本語を習得し日本文化への理解を深める場の提供
- ・三井住友銀行シンガポール支店における、献血、食糧支援を通じた子どもたちの支援、チャリティーマラソンなどの地域貢献活動の実施
- ・三井住友銀行シドニー支店における、拠点内CSR委員会を中心とした、子ども、難病、難民、震災等にかかわるボランティア活動ならびに寄付活動への参加
- ・マニファクチャラーズ銀行における、心臓病予防啓蒙イベントへの参加および有志従業員による主催団体への寄付
- ・欧州三井住友銀行における、ボランティア休暇を利用した社員の活動、行内寄付基金によるチャリティー団体への寄付、また、同基金のマッチングギフト制度(従業員の寄付に対して銀行が一定額を拠出する制度)を利用したチャリティー団体への寄付
- ・欧州三井住友銀行における、ワークエクスペリエンスプログラム(学生への就労体験プログラム)の実施を通じて、学生や恵まれない環境下に置かれた若者等への就労体験およびビジネススキル習得の機会提供

暇制度を導入し、同年より新入社員および引率の役職員による被災地支援ボランティアを開始しました。平成23～25年度累計で延べ947名が参加しています。

●お客様サービスプラザによる被災地支援

SMBCコンシューマーファイナンスでは、全国18カ所のお客様サービスプラザの内、仙台お客様サービスプラザに設置されている無料の貸出しスペースを被災地支援活動団体へ提供し、活動支援を行っています。

●クレジットカードを通じた寄付活動の実施

三井住友カードでは、クレジットカードを通じた義援金寄付受け付けのほか、被災地へ植樹を行うキャンペーンを実施しました。

●東日本大震災支援募金

三井住友銀行では、「東日本大震災支援募金」として、被災地支援の取り組みに限定して活用される毎月400円の給与天引き募金を行っています。平成25年度は、有志役職員によるボランティア活動において連携した、地域のNPO法人に対し、本支援募金と同行マッチングギフトを併せた寄付を行いました。

●復興支援公演へ被災者を招待

三井住友カードでは、国立劇場にて公演された被災地の伝統芸能をテーマとした「東北の芸能IV」に、首都圏に避難をしている被災者100名を無料招待しました。

●備蓄用食料品の寄贈

SMBCフレンド証券では、備蓄用食料品の入れ替えを通常より前倒しで実施し、乾パンとミネラルウォーターを被災地へ寄贈しました。

●都内避難者との交流ボランティアの開催

三井住友銀行では、ボランティアスタッフYUIのメンバーが、都内に避難されている被災者の方々との交流会を定期的に開催しています。